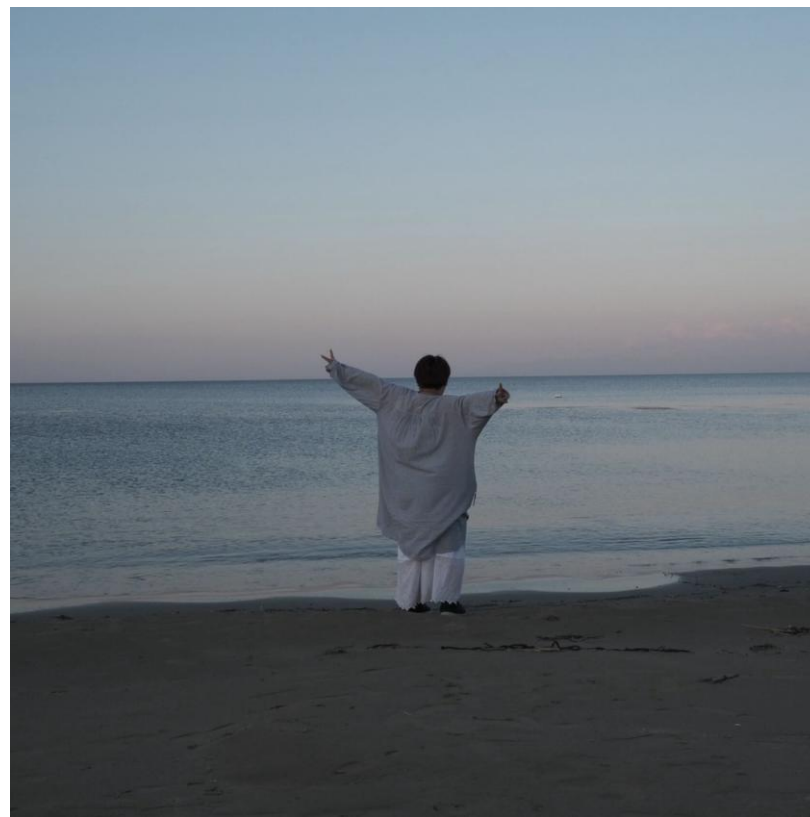


総合2026 活動家宣言〈We act!〉
~ギャップから始まる、私たちのアクション~

第5回 5月14日(木)13:00~14:30

種を蒔くこと 余白を耕すこと



伊藤千晴氏

津田塾大学英語英文学科助教

会場：津田塾大学小平キャンパス特別教室

<講師プロフィール>

岡山県倉敷市生まれ。大学進学を機に東京へ移動し、津田塾大学学芸学部英文学科（現：英語英文学科）で学び、卒業後は同大学大学院文学研究科に進学。専門は主に19世紀の日英交流史で、近年はクィアコミュニティとデザインについても研究を進めている。2024年4月より津田塾大学学芸学部英語英文学科助教。

<担当スタッフより>

皆さんはどのような理想を抱いていますか？また、それを実現するための手段を持っていますか？私たちは多くの理想を抱きながらも、個人でできることには限界があります。特に世界平和の実現や社会制度の改革など、規模の大きい理想を実現させようとする、自分の無力さを感じ、行動すること自体を諦めてしまうことも少なくありません。しかし伊藤さんは、意味を見出せない時間も大切だとおっしゃっています。すぐに結果が出ない行動や、社会を変えられているという実感のない時間は、どのような意味を持つのでしょうか。また、理想と現実の大きなギャップに向き合いながら、私たちはどのように行動し続ければよいのでしょうか。伊藤さんは大学時代、トランスジェンダー生徒の受け入れが進まないことに疑問を抱き、大学に要望書を提出されたそうです。この行動は、大学、周囲の人々、そして伊藤さん自身にどのような影響を与えたのでしょうか。伊藤さんの経験や考えからヒントを得ながら、私たちは理想と現実のギャップとどのように向き合っていくべきかを考える機会になればと思います。